

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第 46 号

(題字は支部長)
平成31年2月1日
発行者
若林直樹

あいさつ

つながりあい…

副支部長 梅澤 泰助

全国各地で過去にはないと言われた大きな災害が発生し、多くの被災者が日常生活に困難をきたしています。

そうした地域では教育施設等も被害を受け、厳しい教育環境の下で子供たちが生活を送っています。不慣れた生活が一日も早く、いつもの日常に戻るように、迅速かつ積極的な支援がなされるよう願っています。今日の災害は何時、何処で、発生するか予想がつきません。我々も常に心構えをしておくことが必要と思います。

退職校長会としてもこうした時、どのような支援が可能なかを支部組織としても検討しておく必要があるのではないのでしょうか。

こうした中、平成の時代も終わりを迎えることになりましたが、会

員の皆様には日々各地域社会にて多様な分野でご活躍されていることに敬意を表します。

高齢化が進んでいる今、支部会員構成の高齢化が現実になっていきます。併せて年金制度の変化と県の再任用制度の広がりにより、新入会時から数年間は何かの職を継続し、現職と会員を兼務する者が増えています。

他方、地域社会での生活時間が中心となる会員は、地域内の諸行事等に関わる中で交流が深まり、地域の一員として役割を任せられ、責任を果たす時間が多くなり、多忙な日々になると思われます。

こうした各会員の実情から、支部活動への関わりが薄くなるのではと考えられます。

退職校長会の存在が会員にとって楽しく身近で、有意義と感じて各事業に積極的に関わり合うよう再認識しあうことも必要なのではないのでしょうか。

大里支部の運営に携わって二年目、会長を始めとする役員諸氏の

尽力に敬意を表するとともに、参加し易い会への思いを強くして

います。

彩の国教育の日協賛

第二十九回 大里地方教育推進協議会

平成三十年十一月六日寄居町力タクリ体育センターを会場に「彩の国教育の日」協賛第三十九回大里地方教育推進協議会が開催されました。来賓として寄居町教育委員会教育長轟和男様、県退職校長会会長石田孝作様、事務局幹事羽島隆夫様、指導者として県教育局北部教育事務所長下野戸陽子様をお迎えし、協議会が盛会裏に終了

できましたこと、また大勢の退職・現職校長先生方に参加いただきましたこと、心からお礼申し上げます。

石田会長様からは、教育推進協議会の歴史について、また現在の情報化社会から「ソサエティ5・5」の時代へ進みつつある等のお話があり、

『社会環境』の驚異的変容に私たちがどう向き合っていくかを考えさせられました。

轟教育長様からは、寄居町全体で道徳教育に取り組み成果をあげつつある等お話がありました。

研究協議では、用土小現校長関根努様が「深く学び、自他を大切にし、よりよく行動できる児童の育成」のテーマをもとに研究の成果を発表されました。テーマを二つの柱に分け「深く学ぶ」は主体的な学び、「自他を大切に」はよりよく行動できる「は学力・体力・豊かな心の育成を道徳・人権教育を中心として取り組んでいるとの発表がありました。

退職校長会からは、神谷為義様が「山上億良の子ども観」―子宝思想に関しての一考察―のテーマをもとに発表されました。「銀も金も玉も何せむに勝れる寶、子にしかめやも」の和歌をもとに、歴史とともに培われてきた古い子ども観の上に、新しい子ども観が何層にも重なって現在に至っている



ことがわかりました。指導講評として下野戸北部教育事務所長様からまず、関根先生が率先垂範の姿勢で職員をリードし自ら動く経営力の素晴らしさにつながっていること、今後は研究内容を子どもや職員にわかりやすくアプローチしていく必要がある等のご指導がありました。次に、子ども観の考察を万葉集からひもとき、分かっていることをもう一度問い直し、調べるというコンセプトの大切さと本質を見極める目と本質を見抜く目を持ち続けるという神谷先生の物事に対する姿勢の素晴らしさについてのお話がありました。

今後、ともどもに研鑽に努め、明日の将来を担う児童生徒の育成に力添えをすることができたら幸いと思っています。

(文責 新井民男)

感想

深谷南 馬場和久

今回発表された二名のご提案は、それぞれに今日の人間教育の在り方に大きな示唆を与える貴重なお話でありました。

寄居・用土小の関根努校長先生には、実態を踏まえた揺るぎない経営方針の下、教育の基盤でもあ



る「人権教育」に邁進されていることに改めて敬意を表したいと思えます。折原小・校長、笠原先生の言葉をお借りすれば、「人権教育を柱とした長年の取組の中で、確かな用土小スタイルを確立された」との評価にまさに共感です。

また、OB代表の神谷為義先生の発表された、山上憶良の子ども観についての考察には、参会者全員がその論理の玄妙さに終始圧倒されました。万葉集に歌う「宝子」が「子宝思想」の嚆矢であるという考えに疑問を抱かれ、その時代／＼の思想背景や歌の変遷、仏教や儒教の影響、さらには現代に続く「孝」の教えにまで言及されながら見事なまでに分析・推論を続け、実に説得力を持ったお話しの展開にただ感心するばかりでした。「物に本末あり、事に先後あり」の言葉が強く心に残ります。

今の時代だからこそ何が本物で真実かを見極めていくことの大切さや学びについて多くを教えていた。ただいた一日でした。

随想



学び続ける人

熊谷東 加藤 彰

今年度の夏、私は都内の大学の夏期講座に参加した。その時、初対面のご婦人と知り合い、色々話をすることができた。

彼女は七十二歳、広島から大学の通信教育部「夏期スクーリング」を受講するため、二週間都内に泊まって勉強しているというのだ。

この話を聞き、私は大きな衝撃を受けた。そういえば大学の夏期講座「生涯健康論」の中で、脳の特徴について次のような話があった。「大脳皮質の最大の特徴は、頻繁に入力がある部分は機能が強化され、少ない部分は機能が減少する。脳は使えば使うほど能力が向上する」と。つまり彼女のように志を高く持ち、いくつになっても学び続けている人は、脳は常に活性化され、生き生きとして輝き続けるということ。私は現在六十三歳、彼女が通信教育の大学で学び始めたのと同じ歳だ。ソクラテスの言葉に「学は光り、無学は闇」という言葉を聞いたことがあるが、私も彼女に負けないよう、いくつになっても学び続ける人生を送りたいと、改めて思った。

「私は中学卒業後、経済的に苦しかったので必死で働き、結婚後も仕事を続けながら子育てしてきた。六十を過ぎ、仕事や家族の世話も一段落したので、どうしてももう一度勉強したいと思ひ、通信教育で大学に入学した」という。その後、彼女は六年かけて通信教育の法学部を卒業し、その時改めて「学ぶ喜び」を実感したという。更に彼女はそこから教育学部に再入学し、二年前に日本語教師の資

断捨離

熊谷西 田嶋 章

最近、レコードがちよつとしたブームになっていっているらしい。レコードを知らない若い人達がレコードを買っていくという。家電店には、いろんなメーカーのレコードプレーヤーが並んでいる。店の人に聞くと「最近みんなCDの音に飽きてきている」ということだ。

CDは確かに一つ一つの音がクリアーに聞こえる。レコードの音には、決してクリアーということはないけれど、アナログの音が本来もっているふくよかさというものがあつた。今の時代、デジタルの音よりもレコードの音が好まれている理由なのかもしれない。私もそんなアナログの音の世界にはまっている一人である。きっかけはオーディオマニアの同級生との再会。彼が今の私のオーディオの師匠である。彼は「七十年代



山ぶどう

頃のオーディオ製品が一番優れている」と言う。確かに、その頃のアンプやスピーカーでレコードを聞くと、実に豊かな柔らかい音がするのだ。

あの頃にはとても手が届かなかった高級オーディオ製品が、今は、信じられない値段で手に入る。ネットオークションを使うのだ。彼が「これは名機」「これはものがある」と言う七十年代のアンプやスピーカーなどを、オークションで落札していくのだ。

同時に、レコードの収集にも拍車がかかってきた。東京の中古レコード店を回っては、古いジャズのレコードを買い漁っている。

齢六十五、人生、断捨離の季節に入った。なのに余計なものばかりが増えていく。それでも今日も、アンプやスピーカーを取り替えては音の違いを楽しんでいる。

LINGSANRYU

熊谷西 西 博美

「ふるさととは、遠きにありて思うもの……」室生犀星の詩である。この詩の解釈は別として、私は、この最初の一行にずっと向き合ってきたような気がする。私のふるさと「明延（あけのべ）」は、中

国山脈の山深い鉾山町。わずか一km四方の山間のまちは、自然と近代文化が調和した不思議なまちだった。幼少期から今で言うマンション住まい、水洗トイレ付き。まちの中心部、平地には、映画館、テニスコート等娯楽設備が完備され、東西南北、山の中腹等にスパー、共同風呂、卓球場が置かれ、いつも人が行き交い人情の溢れるまちであった。しかし、大きなサイルンの音と共に静まりかえり悲しみにくれるまちでもあつた。小

六の卒業式は、同級生が全国にちりじりばらばらになるスタートの日となり、関東に移った私は、関西弁が抜けず悪戦苦闘の中学時代を過ごした。年賀状もだんだんと減り、同級生を捜しに大学時代から十年に一度の割合でふるさとに戻った。みんな働き盛りで誰ともふるさとで出会うことはなかつた。山間に響くとんび（鳶の別名）の鳴き声だけが、妙になつかしく何とも言えない気持ちだつた。

昨年、思いがけず同級生の一人から同窓会のお知らせが届いた。何と小学校卒業以来の再会である。廃校から自然の家になった母校で昔話に花が咲いた。驚いたことにみんな私のように、ふるさとに会いに来ていたのだ。今年もこれか

ら会いに行く。バラバラになった思い出のピースをたぐり寄せ、どんな絵が完成するか楽しみである。幸い私には、二つのふるさとがある。酒を酌み交わす仲間が今ここにもいる。ありがたい。

絵を描くことの楽しみ

熊谷南 原口 一明

「物には、その物の色があります」これは、油絵を描いている時清水信二先生からご指導していた言葉である。

物を見ることの奥深さ、難しさを感じながら、三十年近く遠ざかっていた油絵を描くことが私の生活の中の楽しみとなっている。

ところで、絵を描くことを振り返ってみると、幼少期、ナシヨナルキッド、少年ジェット、アトム、鉄人などのヒーローを新聞の折込みみやカレンダーの裏の白い紙に思いつき描く喜びがあつた。

小学校に入り、初めて水彩絵の具を使える喜びがあつた。しかし、クレパスなどと違って、その使い方難しさから上手に描けず、挫折を味わうことも多かつた。小・中学生の頃の写生会、秋晴れの日に朝から一日行われた行事で、楽しかった思い出のひとつである。

高校では、関口文雄先生(ライオン丸)からは透明水彩絵の具の使い方を教えていただいた。道具は良い物、本物を使うことが大切であることを強調された。特に、色の美しさを意識して描くことをご指導いただいた。また、志高く生きることを熱く説いてくださった。大学では迷わず美術部に入り、油絵を描くことに熱中した。写生合宿では、全員が一部屋に描いた絵を持ち寄り、合評会を開くのが恒例だった。先輩たちからは歯に衣を着せぬ評価を度々もらったが、色面で描くことを丁寧に教えてもらった。また、美術部のOBである影絵作家の藤城清治氏からは、作品からだけでなく、人への比類のない温かさを学ばせていただいた。

絵を描くことのおもしろさ、難しさ、苦しさを楽しみながら、これからも絵を描き続けていきたい。

子育て支援

熊谷北 小林 正俊

退職して早や五年、小学校での仕事を中心にしてきました。学校を離れてすぐに保育園に入りましたが、そこでは、〇歳から五歳までの子ども約四百名強の園児がい

る中で、遊び、読書などをしながら生活している様子や親代わりとなって熱心に保育にあたる保育士の姿を見て保育園の果たす役割を改めて認識しました。

社会福祉法人の保育所は市の委託を受けて運営されております。本園は理事会、評議員会を中心に職員約百十名ほどで運営されています。日常的には、保育園で生活する子どもたちにとって安全で心の居場所となるよう、子どもたちと接したり保育士と話し合ったり、保育日誌に目を通したりしています。

熊谷市では就学前児童数のピークは過ぎましたが、女性の就労志向の上昇やひとり親家庭の増加などにより、今後も保育所ニーズは増大・多様化するものと考えられます。

現在保育所に課せられた子育て支援は複雑でかつ多様化してきているため、本園では、乳幼児保育に携わる人々の保育の質の向上を図るための研究を行い、保育に関わる情報を収集検討し研究成果を発信しています。また、乳幼児保育者の保育力及び親力を高め地域の子育て向上に寄与することを目的に「NPO法人なでしこ保育研究所」を開設しました。

学校と同じように、入園式等の儀式、保護者会、各種の行事や体験活動があり、教職経験を生かす場もたくさんあります。少子化の中、本園は園児数が増加しているろな個性を持った園児に対応していかなければなりません。今後は、学校との連携を密にしていきたいと考えています。

感謝の気持ちで『卒業式』

深谷中 坂本 岳司

卒業式の時期になると東日本大震災(平成23・3・11)を思い出さずにはいられない。退職直前の時だったので、「被災地の学校は卒業式大変だろうな」と心を痛めながら自校の卒業式や新年度の準備をしていたことを思い出す。

早いもので、あれから丸八年が過ぎ平成三十一年(五月から新元号)を迎えた。退職後、深谷市教育委員会にお世話になり、自治会に関わりを持たせていただき、現在、保護司の仕事をしつつ、退職校長会でお世話になっている。

退職校長会では、皆様方から様々なことを学ばせていただいた。人生は、「三学期」というのもその一つだ。「一学期」は誕生から就職まで、「二学期」は就

職してから退職まで、そして「三学期」は退職してから卒業式までということだ。

そこで、自分の卒業式を迎えるにあたり、終活に取り組みだした次第である。墓地を購入し、墓を建てた。家のリフォームと併せて家具や衣類等の身辺整理もした。本や書類関係では、今でも捨てる決断ができなくて困っている。

そんな中、老体に鞭打って平成三十年八月に南米ペルー旅行に行ってきた。長時間の飛行機生活や高地での高山病との戦いは、平成の締めくくりの旅行としては、あまりにも過酷であった。マチュピチュ遺跡等の見学は、まさに、冥途の土産となるだろう。

多くの皆様方にお世話になり、家族に支えられ、昭和から平成、そして新元号まで何とか生きてこられた。これからの日々、自分自身の卒業式のためにも、感謝の気持ちを忘れず、丁寧に、しかも、楽しく生きていきたいものである。

日々是好日

深谷中 荻原 一浩

チャイムに慣れた生活から、退職後の時間の使い方、流れにも大分体が慣れてきたこの頃です。

自治会の役員の活動を中心に定期的な竹馬の友との集まり、かつての同僚との交流、保護者や教員たちとの交遊などの合間に、興味や好奇心に任せ社寺や旧跡の探訪、山歩きや湯めぐり。時にはお上りさんで東京見物、また五年ほど前から始めた富士山の写真撮影などなど。一つ一つの計画や準備などに追われ時間があるようで、意外とないものだなあ・。

最近上質なユーモアの話題が少ないと思っていたらちよつといい話がありました。アメリカ独立記念日を祝う洋上式典に世界の帆船と海軍の艦艇がニューヨーク港に集まりました。その翌日、豪華客船クインエリザベス号が入港。ハドソン川の急流に流されて係留中の海上自衛隊の練習艦かしまの船首に接触。真つ青になつたクインエリザベス号の機関士と一等航海士が謝罪におとずれた。こういう時の決まりで船長は船を降りられないとのこと。丁寧な謝罪を受けた、かしまの艦長の返事は次のようなものでした。「幸い損傷も軽かつたし別段気にしておりません。それよりも女王陛下にキスされて光栄に思っております」。この当意即妙な返答はニューヨークやロンドンはじめ広くマスコミ

で伝えられ艦長の余裕あるユーモアは称賛され険悪にならずに済んだそうです。

たのしみはとぼしきままに人集め酒飲み物を食えという時たのしみは……



上高地朝景

今、求められる

社会人とは

深谷中 石河 信雅

私は今、縁あって保育者養成系大学で仕事をさせて頂いている。

この度、埼玉県内の幼稚園長及び教務主任の先生方に「幼稚園教諭として必要な資質能力とは何か」という質問をさせて頂いた。回答としては、①子どもの理解と、

子どもとのコミュニケーション能力②社会人としてのコミュニケーション能力③仕事に対しての意欲・積極性・行動力④自分の仕事に対する責任感⑤礼儀・身だしなみ・マナーが十一項目をお開きした中での上位五項目であった。保育者としての専門的能力というよりも社会人として必要な人間性を身に付けておいて欲しいということと捉えることができる。

経済産業省の社会人基礎力に関する研究では社会人基礎力を構成する三つの能力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を挙げている。中でも、チームで働く力では、多様な人と共に、目標に向けて協力する力と説明している。

会社でも学校でも職業人として要請される資質能力は、専門職としての能力というより、まずは社会人として必要な、コミュニケーション能力や責任感であったといえる。では、社会人として必要な資質能力はどのように学び身につければよいのか。佐藤一斎は、

『言志四録』で「少なくとも学べば、則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」と、いう名言を残している。

これから社会を担う子供達が、どのような何を学ぶかが重要なこととなるようである。さて、ではこの学びは知識理解を中心とした学力だけで事足りるのであるか。

「免許」への期待

寄居 大谷 一義

私にとって、免許と言えば教員免許と自動車運転免許の二つ。他にも様々な免許をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。

教員の免許状は、更新制の導入により十年に一度の講習を受ける必要が出てきました。この制度は、政権交代の際にも廃止されず、今ではすっかり定着しています。真面目で従順な教員は、講習で学ぶことの良さを素直に受け止めているようですが、講習料の自弁には不満があるようです。私はと言えば、「免許更新講習免除証明書」により平成三十二年度末までの「有効」をいただきました。この折角の「有効期限」までにどのような使い方ができるのか。

もう一つの自動車運転免許証は、日々フル回転。特に、日本百名城を巡っている私にとっては、曳屋されている弘前城、四月から続百名城に制定された秋田城、白石城、

富山城、高島城などを巡る際の、意のままに動く、快適な交通手段となつていきます。この便利な乗り物ですが、高齢者の運転が原因となる痛ましい事故が目立って増えてきています。果たして、私の運転能力は、何歳まで持つか。どの時点で、返納しなければならぬか。その見極めは自分自身でできるのかなど、迷いと不安が湧いてきます。

同好会だより

写真同好会

岡部 弘行

写真の腕は年々向上し、県レベルのコンテストでの入賞報告が聞かれる嬉しい現状です。全会員がというわけではありませんが日頃の傑作や貴重な瞬間映像などを外部の方々にも見てもらいたいという思いは全員もつています。地域行事や旅先でのスナップ、季節の風景、山の写真、合成写真など様々ですがそれぞれに写真ならではの情報がこもっています。本会の今の体力では単独の作品展開催は尚早ですが将来は支部同好会としての合同作品展のような形でという夢が話題に出ています。

しかし、それから解放される朗報がまもなく届きそうです。これは自動運転技術の発展により、近い将来、高齢者仕様車が誕生。その車に乗ることを条件に、免許証「条件等」の欄に「高齢者仕様車限定」と印字され、高齢者も堂々と運転できる日が来るのではないかと秘かに期待しています。さて教員の高齢者仕様免許証は？

囲碁同好会

深田 忠雄

○ 五月十九日 春季大会成績
優 勝 山室 鐵夫
準優勝 来間 平八
○ 十一月十七日 秋季大会成績
優 勝 山室 鐵夫
準優勝 藤野 勝三

二年前に、人工知能が、世界最強棋士に勝つたと知らせましたが、三十年夏には、中国北京で、テント世界AI囲碁大会が開かれ、世界から十一チームが戦い、日本AQは、ベスト四に入りました。現在のAIは、三十手以上先の変化を読んでいるというから、想像しただけでもオソロシイですね。

絵画同好会

蜂須 栄

絵画同好会は、風景写生を六月・十一月に、静物画を九月に、人物画を二月に、作品展を水墨画同好会と合同で十月に、を主な内容として活動しています。

集中して作品に向き合う清々しさや、作品について互いにコメントを交わしながらの語らいの楽しさからは、せわしい日常を遠く追いやる思いがします。

経験者のみならず、描くことが好きで活動している方々もおりますので、絵に興味を持ちの方は是非、活動を覗いてみてください。お待ちしております。

水墨画同好会

篠崎 忠男

水墨画同好会は月二回、深谷公民館を会場に定例会を開いています。水墨画は墨と硯と筆と用紙と描く対象があれば始まります。

他に小皿と筆も削用筆を始め数本必要です。筆を洗う水入れも必要です。勿論描く対象がなければなりません。

一回の活動時間は二時間半位あります。

りますが風景画など完成させるのは無理です。スイセンの花などは可能です。

大里の作品展には三人が出品されました。

か。



カサブランカ

茶道同好会

大橋 洋子

入会して二年目になりました。深谷公民館で雲伝心道流指南の梶並圭舟先生に、月一回ご指導いただいております。

残念ながら七十歳半ばを過ぎての点前の所作は、足腰が思うようにはいかず大変ではあります。が、毎回先生が用意してくださる四季折々の風情あるお菓子と一服の茶は、至福のひとつです。

また、床の間に飾られている書画・押花をはじめ、数々の茶道具等々、まさに総合芸術の奥深さをあらためて感じております。ぜひ、入会してみてください。

地区だより

吟子誕生の地、妻沼から

熊谷北 根橋 文武

「女子に不利な基準 合否男子より厳しく 医学部入試」平成三十年十月二十三日付の朝日新聞の見出しである。残念ながら、民主主義国家を標榜する日本にあつて、依然として男女平等が建前であるという一面を象徴していると言わざるを得ない一現実である。

しかし、今から140年もさかのぼる明治十四年、女子禁制の医学界への道を切り拓こうと私立医学部「好寿院」に入学した一人の女子新入生がいた。利根川べりの俵瀬村（現熊谷市）に生を受けた荻野吟子である。男子医学生たちの「女、帰れ！」とのすさまじい罵声を浴びながらも、吟子は「医は女子に適せり、ただ適すといふのみにあらず、むしろ女子特有の天職なり」という信念のもと、女医への道を決然と歩む。そして幾多の苦難を乗り越え、医術開業試験に合格、ついに政府公許の登録女医



春の荻野吟子像
—めぬま道の駅—

第一号となつたのである。この吟子の生涯は、直木賞作家渡辺淳一の小説「花埋み」により一躍世の脚光を浴びることとなる。これらの女史の偉大な足跡を、熊谷市俵瀬の荻野吟子生誕之地史跡公園内に建つ「荻野吟子記念館」でたどることができ、同公園内に立つ「荻野吟子顕彰碑」の末尾には、吟子が愛誦した次の聖句が刻まれている。人その友のため己の命を損つるは是より大なる愛はなし。目の前に次々と立ちはだかる壁を、不屈の信念と弛まぬ努力で越えた吟子の生き様は今なお新しく郷土の誇りとして燦然と輝く。

役員・理事研修会

鉢形城歴史館・鉢形城址を巡る

平成三十年九月六日

初秋の寄居町鉢形公園を会場に定例の研修会が開催されました。はじめに講師の鉢形城歴史館館長石塚三夫氏から鉢形城の歴史や歴史館についてお話をいただきました。戦国時代について、鉢形城の歴史、鉢形城歴史館や鉢形城公園のことなど興味深い内容でした。

親睦ゴルフ大会 成績

十一月二十二日、若林支部長の激励の下、秋季大会を妻沼ゴルフ場で開催しました。曇天の中でしたが、参加者全員が一〇〇を切るスコアで楽しくラウンドすることができました。また、今回は、七十五歳の部を設け競技した結果、見事に倉上先生がダンデー賞を獲得しました。以下、全体の入賞者を記載し、報告いたします。

優勝	黒須 聖治
準優勝	加藤 彰
第三位	中村 充志
〇ベストグロス	中村 充志

敬称略

その後、講師の案内で鉢形城歴史館と公園内を巡りました。

城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれています。鉢形城は天正十八年の豊臣秀吉による小田原攻めの際、一カ月におよぶ籠城の後に開城となりました。今でも堀や土塁が良く残り、本曲輪などの空間を認識できます。なお鉢形城跡は「日本百名城」、「日本の歴史公園百選」などに選定されています。



奥入瀬

計報 平成三十年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
大木 平吉	85	1・14	深谷南
高田 清	93	2・12	熊谷南
村山 正雄	85	3・20	熊谷中央
秋山 重雄	82	5・16	寄居
鋸持 昭夫	69	7・12	深谷北
高宮 哲	93	11・30	熊谷中央
鳥塚恵和男	97	12・23	深谷北
福島 茂徳	95	12・29	熊谷中央

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

文 芸

短 歌

熊谷学講師として

熊谷西　岡田　菊江

麦王と呼ばれし権田愛三の
偉業を伝える我は幸せ

研究し麦増産をすすめるに
土が大事と常に言いたり

愛三は金肥の入るは土でなしと
全国行脚で繰り返し説く

炎 暑

熊谷西　山室　鐵夫

「41・1度記録更新おめでとう」
湘南に住む次男からのライン

高齢者に市より贈られしクールタオル
首に巻きつつ庭の草とる

洪水後二十日を過ぎし炎暑の中
土砂片付ける真備町の方等

秋 深 む

深 谷　高松　明子

工事場の人ら見あげおり一面に
染めつくしたる夕焼けの空を

黄葉散る昼を葉ぼたん植えんとし
かがみてふれし土温かし

秋深し夜のしじまを故郷の
歌うたいゆく異国の人が

吾 が 町

寄 居　木島　千恵

万葉にも詠まれし堅香子咲き継げり
城址の傾りをマゼンタに染め

舟山車の五艘の浮かび花火爆ず
歓声の渦河原に沸ける

新たなる車の流れ生じたり
大型スーパー街に開かれ

俳 句

嗚 呼　妻 沼 線　へ

熊谷中央　小林　明

春暁や草色深くカメの道

薄暑光錆の匂ひや鐵路跡

廃線を巡る人あり秋日和

冬の虹利根越えざりし妻沼線

夏服や廃線跡を通学す

豊 の 秋

熊谷北　井田　照幸

梵鐘の余韻刈り田を通り行く
残し柿ひんやりとして鴉の朝

案山子立つ棚田の先へ新幹線
霧雨の刈り田を歩くサギ数羽
秋耕のトラクター待つ白鶴鴿

事 務 局 よ り

水墨画同好会の小林芳雄先生より力作をお寄せいただきました。ありがとうございます。



バラ

●●● 編 集 後 記 ●●●

世相を映す漢字として「災」が選ばれたが、昨年とはかく地震台風、猛暑などあいつく自然災害にみまわれた一年となった。

しかしそんな中であつて、フィギアスケートの紀平選手、卓球の張本選手、水泳の池江選手、将棋の藤井七段など十代の若鮎たちの大活躍が多く、明るい話題を投げかけてくれた。

いよいよ今年には平成から新しい元号へとかわる。これからの日本がどのような時代を歩むか、その新たなスタートの時となる。

会員諸氏の益々の健康と活躍を祈念して本号をお届けします。

度 年 員 郎 守 司 昇 武 治 誠 久 康 一
部 部 員 一 眞 文 宏 和 行 俊
成 30 年 郎 守 司 昇 武 治 誠 久 康 一
平 広 報 部 員 一 眞 文 宏 和 行 俊
塚 新 加 田 根 荒 強 馬 松 新

埼 玉 県 退 職 校 長 会 大 里 支 部 会 報

(第四十六号)

発 行 平 成 三 十 一 年 二 月 一 日

発 行 者 支 部 長 若 林 直 樹
印 刷 所 光 陽 社 印 刷 所

熊 谷 市 本 町 一 丁 目 一 〇

(〇四八)五二一〇七五七